

楽読  
(ラクヨミ)Vol.  
1,216Raku  
Yomi

# 拡大が期待されるロボット市場 ～ロボットは人手不足を改善する切り札

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

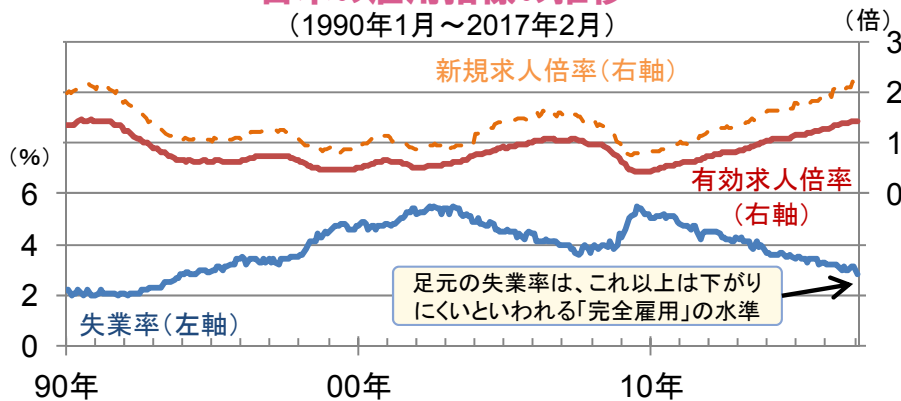
日本の雇用情勢を見ると、足元、失業率は低く、有効求人倍率は高くなっており、いずれもバブル期だった1990年代初頭の水準となっています。しかし、当時とは異なり、現在は、労働人口の減少や雇用のミスマッチなどを背景とした人手不足などが、一段と問題視されています。

政府は、様々な角度から問題解決に向け取り組んでいます。その中に、「ロボット新戦略(2015年1月公表)」があります。同戦略は、単なる産業振興ではなく、労働問題解決を意識したものとなっており、「労働集約的で生産性が低いプロセスや、単純な繰り返し作業、過重な労働等にロボットを大幅に導入することで、人手不足を補い、人材を高付加価値分野で活かしていくことを目指す」などとしています。重点産業分野としては、製造業における中堅・中小企業や三品産業(食品・化粧品・医薬品産業など)、卸・小売業や宿泊・飲食業などのサービス分野、介護・医療分野、インフラ・災害対応・建設分野の他、農林水産業・食品産業分野が挙げられています。これらの産業分野では、人材不足をロボットの活用でカバーしようという構想が盛り込まれています。そして、ロボットの国内市場規模については、2020年には2.4兆円へと成長させることが目標となっています。

ロボット産業は日々進化を遂げており、精度がより高まったロボットと人がうまく協働することで、人手不足問題の改善につながると考えられます。人手不足問題が改善し、企業の成長力が高まることで、賃金や雇用環境も改善され、それが個人消費の伸びにつながるという経済の好循環が期待されます。ロボット産業の成長は、日本の経済成長に、一役も二役も買うことが期待されます。

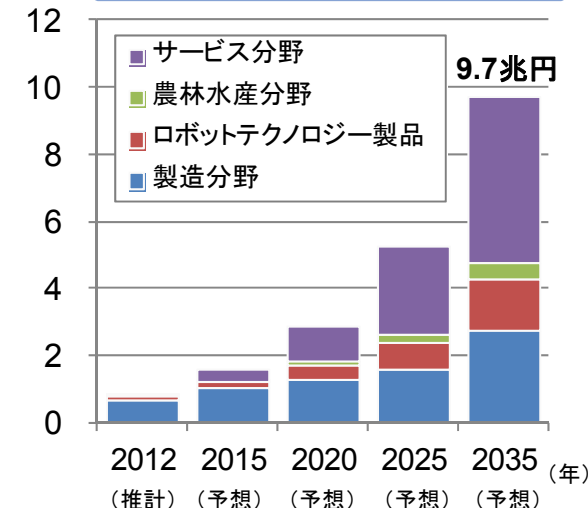
## 日本の雇用指標の推移

(1990年1月～2017年2月)



## 日本のロボット産業の市場規模

2035年には現在のコンビニの市場規模に匹敵する約10兆円規模まで拡大が見込まれる



(出所)2015年以降: NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の2010年4月公表予想)、  
2012年: 経済産業省がNEDOと同定義で推計

## 日銀短観 雇用人員判断DI(全規模・全産業)の推移

(「過剰-不足」)(%ポイント) (1990年1-3月期～2017年1-3月期)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。